



城ヶ丘

題字：6年児童

十日町小学校HPは

こちらからどうぞ！



十日町小学校だより 令和8年7月29日 No.5

文責：校長

夏休みは『遊び』も『勉強』のどちらも満喫！

夏休み



私はこれまでの教員生活の中で、夏休みを迎えるたびにこどもに大量の宿題を課し、「あれをやりなさい」「こういうことはしてはいけません」「勉強を終えるまでは遊びに行ってもはいけません」「規則正しい毎日を送りなさい」等々の指導を繰り返していました。当時は、そうすることが当然だと思い疑いませんでした。しかし、与えられた課題や指導されたことをこなすことは、やらないよりはいいかもしれませんが、本当にこどもの学びや生活に効果があるのか疑問に思うようになりました。



やはり、こどもが自ら考え（実は、どのように考えたのかが重要です）、判断（選択）したものを、こどもが責任をもって向き合うことが必要です。本来は、やり遂げたらこどもの手柄、さばれば全てこどもの責任のはずです。今年度当校がこどもに投げかけたのが「4年生以上は自分と対話して勉強する質と量を決めていく」というものです。「楽」の道を選ぶのか、あえて自分に「苦勞」を課すのか、どちらが正しくてどちらが間違っているとは一概には言えません。ただ、これだけは断言できます。こどもにとって、遊びも勉強も大切です。どちらも満喫することが、真の夏休みの楽しさです！8月31日（月）、全校のこどもが再び下のような表情を見せてくれたら、これ以上の喜びはありません！



私が小学生の頃、夏休みを迎えると必ずと言っていいほど夢描いていたのは「自転車で日本一周したい」というものです。とはいえ、私の場合は、妄想と言ってもいいレベルで留まっていたので、時間が経てば忘れていました。もし、本気で実現しようと思ったら、綿密な計画を立て、家族を説得する必要があります。しかし、本気で実現させようとは思っていませんし、できるとも思っていませんでした。単なる空想の世界だったのです。

私の夏休みはこんな程度でしたが、夏休みは（許される範囲でという制限はあろうかと思いますが）、ダイナミックな、長期休業中だからこそできることがあります、果敢にチャレンジできる時間が保障されています。自由研究、科学研究、発明工夫、模型工作、日頃疑問に思っていることにじっくりと向き合っ解決する等、そんな過ごし方が、こどもが充実感を獲得し、「こういう過ごし方って楽しいな」となり、「来年はもっとやってみたい」と意欲を高めます。やろうと思わなけれ

